

令和元年度自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園

1、本園の教育目標

園児一人一人の存在そのものを尊重し、個性を大切に教育により自己肯定感を育てると共に、人と関わる良さ、自然と関わる良さを十分に経験し、意欲的に力強く生きる力を育てる。

本年度、重点的に取り組む目標・計画

これまでの自己点検・評価の結果や年度末の保護者アンケートも踏まえて下記の点について重点的に取り組む。

1. 教育・保育課程の見直し。

年齢ごとの一年間の姿から育ちの力を検証し、育ちのつながりを探り環境や関わりのあり方を考え、教育・保育の充実を図る。

2. 2, 3歳児の接続。

にじいろ保育園からせんりひじり幼稚園への入園が、こども園として段差のないものにするための連携の在り方や環境の工夫を図る。

3. 子どもの運動能力の向上を図る。

屋外環境を工夫し、日々の運動の機会を増やし運動能力の向上を図る。

4. 園の保育理念の理解推進を図る

ドキュメンテーションやポートフォリオに加え、ICT システムを利用した保護者への配信システムを使い、保育の取り組みや子どもの育ちを可視化し、保護者の理解を深める。保護者と子どもの育ちを共有し、共に育ちを支える。

2、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1、0歳～6歳の担当者がそれぞれの年齢の発達における課題や特徴をまとめるための話し合いの場を持ち、6年間の育ちを見通した教育・保育課程を作成する。	新たに学年ごとの期案を作成した。子どもの育ちから考えた保育内容や子どものかかわり方を探っていくために、写真を加え、分かりやすくかつ継続的に使用しやすいものに更新した。
2、2, 3歳児の接続を段差のないものにし、安心安定した幼稚園生活に移行できるように、環境を工夫する。	2号の保育室を預かり保育の部屋の隣にし、担当保育者が3号から持ち上がり、変化を最小限にとどめた。日常生活での交流を持ち、遊びを通して、子ども同士の関わりを増やした。
3、安全な環境の中で、日々の運動の機会を増やし運動能力の向上を図る。	正課の体操だけでなく、遊びの中で体を使った活動や、園外の散歩を通し、身体の様々な部位の動きを意識した運動を取り入れている。走って登れる挑戦できる遊具も整え、子どもたちの運動能力の向上を図る。5歳児の運動検査を実施し、家庭の生活調査との関連性を検証し、結果を報告、各家庭との連携も図った。

4. 園の保育理念の理解推進を図る	従来のドキュメンテーションやポートフォリオに加え、ICT システムを利用し、日々の子どもの様子を写真で保護者に配信した。保育の取り組みや子どもの育ちを可視化したことにより、活動や子どもの育ちに関しての保護者の理解が深まった。様々なことをタイムリーに発信することで、保育活動や PTA 活動においての保護者の協力が多く得られた。また、子どもの育ちを共有し、共に育ちを支える姿勢も見られた。
-------------------	---

3、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>本年度も、1年間を通して子ども理解を中心とした園内研修や支援児のカンファレンスに取り組んだ結果、個々の保育者が子どもの思いを理解することから、環境の構成、教材の準備、保育者の関わり等を考えていくことができた。また、非常に見えにくい幼児期の育ちを家庭と共有するために様々な方法(ポートフォリオ・ドキュメンテーション・ICT システム・コンセプトブック等)により伝えていった結果、個々の子ども育ちを良さとして肯定的に観ると共に3年間の育ちのイメージを共有することができた。</p> <p>年度末に実施した全家庭対象の匿名アンケートでは、「1. せりりひじり幼稚園の教育について・・・」の設問で「とてもよかった」・「よかった」の合計が 98%という結果になった。可視化や ICT 通信などで保護者の子ども理解が深まり、評価につながったと言える。屋外環境の「よかった」以上98.5%になり、屋外のおままごとコーナーの充実やチャレンジ系の遊具の利用成果と考える。酷暑の夏季はミストシャワーを各所に設置するなどの対策や、季節を感じる園庭各所の植栽なども高い評価を得た。2, 3, 歳児の接続に関しては、昨年に引き続き2号の子どもを1クラスにし、長時間預かり保育の部屋の隣の保育室にしたことにより、非常に安定した新学期を過ごすことができた。年度末にはアンケートの質問に回答を添えた冊子を各家庭に配布したことにより、様々な意見を持つ保護者に対してより一層園の取り組みへの理解を求めることができた。今後も子どもの育ちを可視化し、各家庭へ教育内容の理解を図る努力を続けていきたい。</p> <p>また、多くの園内研修や学年会議により、職員のファシリテーター技術も向上し、ミドルリーダーを中心とした同僚性が育った。今後も、子どもの育ちから始まる保育計画を立て、人生の基礎を培う幼児教育の重要性を常に意識して教育の質の向上に努めていきたい。</p>

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	引き続き、月ごと行事ごとに、子どもたちの育ちの姿を抽出し、期ごとに育ちや力を整理し、つないでいく。
身体作り、運動面の育ち	日常生活や遊びの中で様々な種類の運動ができるよう環境、活動内容の見直しを図る。
園の保育理念への保護者の理解を推進	引き続きキッズリー等の ICT 配信媒体を活用し、保育内容や方針を可視化して伝えていくことにより、保護者の保育に対する理解を深める。
2・3歳児の接続	にじいろ保育園からの進級児の安心安定を図るために、今年度同様にクラス配置を工夫し、連携を図る

6、学校関係者の評価

- ICT システムを使って小まめに子どもの様子の配信や、ポートフォリオだけでなく、園だより等様々な方法での発信のおかげで、保育内容や教育方針の理解が深まった。
- 一方、幼稚園の方針が伝わり切れていないと感じる一部の保護者に対しては、理解が深まるように、普通に普段の子どもの育ちから大切にしていることを、さらに発信し続けなければならない。
- PTA 活動に協力的な保護者が多く、保護者も幼稚園での活動を楽しんでいるように見受けられる。保護者同士の関係性をよりよくするために、個人の PTA 活動の負担感を減らし、今後も楽しい場づくりを工夫していくことが大切。
- ホームクラスの利用希望者が増加し、保育室数の関係上利用制限を設け、一般の保護者は利用しにくい現状がある。ホームクラスでの生活内容を見直し、より多く利用できるような工夫が必要である。

7、財務状況

公認会計士による年間4回の監査において、園児募集が順調であり、耐震化に伴う大規模改修、建て替え工事のための借入金も順調に返済が進む等、財務状況は良好であるとの指摘を受けている。